

お家の方と一緒に読んでください

新緑がまぶしい季節ですね。七里小では1年生から6年生まで図書館の利用が始まっています。学校図書館は、本を読んだり借りたりするだけでなく、わからないことを調べたり、本を見ながら折り紙を折ったり、静かに過ごしたい時に使ったり、一人ひとりの図書館の使い方があります。休み時間に、「本は読まないけど、なんとなく行ってみようかな」でもいいのです。今年度も気軽に楽しく図書館に足を運んでもらえたら嬉しいです。

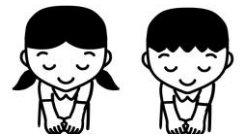
* 令和8年度学校図書館担当 * 司書教諭 菊地 悟恵 図書館司書 湯沢 貴子

「今年度も1年間、よろしくお願いいたします」

《保護者の方へ》今年度も図書バッグの持参やご家庭での本の管理などお世話になります。もしも、お子様が借りてきた本にページの破れなどがあった場合には、直さずに、お子様を通して司書に伝えてくださるようお願いいたします。壊れた本は専用のテープで修理します。

4月15日(水) 第1回図書委員会

今年度の目標「みんなで協力し、楽しい図書室にしよう！」



6年生5名、5年生6名、合計11名で活動します。

業間休みと昼休みに活動しています。低学年のみなさんは、わからないことがあったら、図書委員のお兄さんやお姉さんに聞いてみると、やさしくおしえてくれますよ。

6月1日(月)～6月29日(月) 雨の日読書スタンプラリー

《参加方法》

- ①ブックランドでスタンプのカードをもらいます。
- ②休み時間に本を借りる時、カードを出してスタンプを押してもらいます。
何冊借りても、1回の貸出ごとにスタンプは1つです。
- ③スタンプが3つたまると、貸出券がもらえます。



雨の日や暑くて外遊びができない日が増えるこの時期は、たくさん読書ができるチャンスです！

スタンプラリーにも、ぜひ参加してくださいね。

《第72回青少年読書感想文全国コンクール課題図書》

低学年の部(1.2年生)

見本を教室に回覧しています

『まこちゃんとコトバロボ』

村上市良子/作 佼成出版社

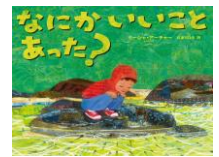
国語の宿題やドリルは、コトバロボに丸投げのまこちゃん。毎日らくちんだけどテストの結果は最悪。「これでほんとにいいのかな？」学びの楽しさを教えてくれる心温まるお話です。



『なにかいいことあった？』

ミーシャ・アーチャー/作 BL出版

「なにかいいことあったかい？」おじいちゃんからそうたずねられたダニエルはいいことをさがしに公園をめぐる。さて、いいことをみつけることはできたでしょうか？



『たねはいのちのおわりとはじまり』

鈴木 純/著 フロンズ新社

みんながう植物だけど、はじまりはたったひとつのたねだったということは、みんなおなじ。



『ララのまほうのことは』

グレースー・ジャン/作 工学図書

あつ、あつ、あ、あつ。道路はゆげがでそうなくらい。まちのひとたちはみんな、のろのろ歩いています。でも、ララは元気いっぱい！それはね…。



中学年の部(3.4年生)

『まだまだここから』

宇佐美 牧子/作 ポプラ社

水泳がちょっと得意な小4の蓮。スイミングスクールの特待生になるチャンスが訪れたが、選ばれたのは弟の凛。がんばる意味を見つけていく、少年の気づきの物語。



『それからぼくはひとりで歩く』

アリシア・モリーナ/作 ほるぷ出版

ハイメは11歳、新しい学校のクラスに視覚障害のある子は自分だけ。ある日、クラスメートの前で見栄をはって、初めてひとりでバスに乗って帰ることになり…。



『おいしいお米をつくりたい！』

～ゆうちゃん、小学生で農家に弟子入りました～

谷本 雄治/著 汐文社

小学2年生で農家に弟子入りのゆうちゃん。田んぼをかりて米づくりを始めますが、次々におそいかかる雑草、台風、害虫…。ゆうちゃんの4年間の挑戦を描く感動のノンフィクション。



『宇宙でウンチ』 ～みんな知らない宇宙トイレのひみつ～

A・ポンドー・ストーンとC・ホワイト/作

あすなろ書房

人類は英知を集めて宇宙開発をおすすめしてきましたが、トイレという大きな問題が残っていました。だれでも「ウンチ」をしますが、宇宙で地球のトイレを使うとウンチが浮き上がってしまいます。宇宙トイレの秘密を解き明かすユニークな科学絵本。



高学年の部(5.6年生)

『ポジション！』

高田 由紀子/作 岩崎書店

運動は苦手なのに背が高くてミニバスのメンバーになった芽吹。車いすバスケットで努力するルイの姿に鼓舞され成長していく物語。



『リヒト！』

イノウエ ミホコ/作 文研出版

祖母の節さんがぼくに託した中身のわからない封筒。節さんが伝えたかったことは何？疑問を抱えながら、ぼくは「苦手なあい」とドイツへ向かうことに…。



『キミの一步アフリカ』 ゾウを食べるにはひと口ずつ

味田村 太郎/文 あかね書房

砂漠化による食糧不足や貧困、環境破壊や治安悪化、アフリカ各国における社会問題を背景に、チェスやボクシングなど、夢を抱いて力強く生きるアフリカの子どもたちを描いた1冊。



※「ゾウを食べるにはひと口ずつ」はアフリカのことわざです。

『ミシュカ』

エドワード・ファン・デ・フェンデルとアヌッシュ・エルマン/作

静山社

難民になった家族がようやく新しい国で見つけた幸せ。少女ロヤがウサギのミシュカと過ごす楽しい日々を描きながら、大変だったなが旅のことや、新しい国で受けた差別のつらさも伝える。

